

2020年6月22日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2020年5月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	62,810,650 万円	100.0%	108.3% (108.5%)	60,903,359 万円	107.1% (107.5%)
食 料 品	55,534,692 万円	88.4% (89.5%)	112.2% (114.2%)	54,013,988 万円	110.6% (112.6%)
農 産	8,715,632 万円	13.9% (13.7%)	118.2% (118.2%)	8,479,013 万円	116.6% (116.5%)
水 産	5,108,415 万円	8.1% (7.9%)	111.7% (109.0%)	4,948,851 万円	109.8% (107.4%)
畜 産	7,418,908 万円	11.8% (12.0%)	118.9% (121.1%)	7,232,027 万円	117.3% (119.3%)
惣 菜	5,837,200 万円	9.3% (9.1%)	99.5% (96.5%)	5,660,651 万円	97.7% (95.0%)
日配食品	12,780,897 万円	20.3% (20.5%)	113.0% (116.5%)	12,435,722 万円	111.6% (115.0%)
加工食品	15,673,639 万円	25.0% (26.4%)	110.9% (116.3%)	15,257,724 万円	109.4% (114.9%)
生活関連	3,715,024 万円	5.9% (5.7%)	106.9% (101.8%)	3,603,114 万円	106.0% (101.5%)
衣 料 品	1,088,465 万円	1.7% (1.2%)	64.1% (48.6%)	1,042,802 万円	65.0% (49.8%)
そ の 他	2,472,469 万円	3.9% (3.6%)	73.9% (62.6%)	2,243,456 万円	73.6% (63.9%)

② 数 値

全店総売上高	62,810,650 万円	店舗数	4,812 店舗
総売場面積	9,385,763.0 m ²	総従業員数	259,450 人

店舗平均月商	13,052.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,116.5円 (112.5%)
月間m ² 売上(前月)	6.7 万円 (6.5万円)	平均店舗面積	1,950.5 m ²
月間坪売上(前月)	22.1 万円 (21.6万円)	パート比率(前月)	76.6% (76.7%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 5月の天候について、気温はほぼ全国的にかなり高かった。東日本を中心に晴れの日が多く、東日本の日本海側では降水量がかなり少なかった
- ・ 生鮮物の相場状況について、野菜は旬ごとの変動が大きかったものの、白菜やピーマン、ジャガイモは月間を通して前年同月を上回り、果実では国産のリンゴと輸入バナナの相場が前年同月を上回った。水産物は、コロナ禍により外食を中心に需要が落ち込んだことから市場への入荷量はかなり減少し、卸売平均価格については前年を下回った。畜産物は、外食需要の落ち込みにより、和牛の卸売価格が大きく下落した一方で、豚肉の卸売価格は一般需要の高まりと海外チルド工場停止による供給減により上昇した
- ・ 前年と比べ土・日・祝日の回数は1回多い曜日回りであった
- ・ 先月からの緊急事態宣言は、14日に39県が解除され、21日には大阪、京都、兵庫が解除、残る5都道県は25日に解除された

《 商品動向 》

○農産

- ・ 野菜では、キャベツ、白菜、ジャガイモなどが高値で推移したため、点数は伸びないものの売り上げは好調となった
- ・ 梅は下旬に一気に出回り、しっかり提案できたところは売り上げに繋がったとのコメントが見られた
- ・ リンゴ、イチゴは量が出回り在宅需要もあって好調であった
- ・ スイカは出回りが少なく高めの価格となり、売り上げにつながらず不調であった
- ・ 輸入果実では、バナナがコロナ禍による産地の混乱があったものの、高値推移と在宅需要の高まりにより好調となったほか、キウイフルーツが好調であった

○水産

- ・ 養殖真鯛は卸値が下がり、売りやすい価格となったため好調であった
- ・ さわら、ブリ、鮭などの切り身が好調であった
- ・ 初がつおで売り込む時期だが、量が大幅に減り高値となったため、売りづらく不調であった

○畜産

- ・ 先月に続き、全般に好調に推移。用途別では、牛肉・豚肉・鶏肉は家庭内の焼肉需要に応じて好調、ひき肉は手作り需要で餃子の皮などとともに好調であった
- ・ 外食自粛で和牛の卸値が下がっており、仕掛けたところは大きく伸ばした
- ・ 豚肉は価格が変動し、売りづらかったとのコメントが見られた

○惣菜

- ・ 先月から売り上げは回復基調、涼味麺類や天ぷら、たこ焼きや焼きそばなどのスナックが好調であった
- ・ 例年であれば、春の行楽やGWの団欒に向けたお弁当やオードブルなど大容量を展開する時期だが、ニーズなく不調であった

○日配食品、加工食品

- ・ 先月に引き続きコロナによる外出自粛で外食の需要も取り込み、パスタ・乾麺、製菓材料、菓子、酒類、粉類が好調に推移。特にホットケーキミックス・小麦粉やお好み焼き粉は引き続き販売好調で品薄となり、一部企業では供給が滞り、前年の売り上げ実績を下回ったとのコメントが見られた
- ・ 外出自粛で飲料不振、特にスポーツ等の自粛によりスポーツ飲料は大幅に昨年を下回った
- ・ 冷やし中華などのチルド麺、牛乳・乳製品は引き続き好調となったほか、野菜の販売価格上昇の影響もあり、浅漬けなどの漬物が好調であった

○GW・子供の日の動向について

- ・ チラシ自粛、イベント自粛の中でも、子供の日にに向けた手巻き寿司や焼肉の提案を行ったところは前年の売り上げ実績を上回った。柏餅はアイテムが絞られた結果、消化率が上がり、実績は好調であったとのコメントが見られた
- ・ 集まり自粛により大容量やお祝いメニューを控え、定番中心の展開とした企業も見られた

○母の日マーケットの動向について

- ・ フラワーギフト予約は未実施の企業もあり対応が分かれた。自粛ムードの中で、実施企業も訴求が十分でなく不調のコメントが見られた
- ・ 当日のお祝いメニューは、握り寿司やワインなどで仕掛けるも、好不調が分かれる結果となった

以上